

レーダ法におけるシート測定方法 (H19)

1. はじめに

レーダ法によって配筋・かぶりを測定する場合、鉄筋間隔が比較的疎であれば、メッシュをけがいたビニルシートを用いる（この方法を、シート法と呼ぶ）ことによって、現地での測定時間を短縮できる。

シート法の適用条件、適用方法について記述する。

2. シート法の適用条件

シート法を適用する場合は、次のような条件の時が望ましい。

- 鉄筋間隔 120mm 以上、
- かつ、鉄筋間隔（かぶり×1.5）以上

3. シート法の使用法

- 図1のようなメッシュ（例えば10cm×10cm）をけがいたビニルシートを用意する。
- 測定箇所にビニルシートを貼付する。このとき、ビニルシート上の測定ラインが鉄筋に重ならないように、概略の縦・横鉄筋位置を把握して、貼付位置を微調整し、シート法適用が適切な箇所かどうかを判断する。
- 測定ラインの番号順に従って縦7ライン（①～⑦）、横7ライン（⑧～⑭）を測定し、記憶媒体に記憶する。
- 次に測定する場所にシートを移し、同様に測定する。
注）測定位置、測定ラインとその番号を正しく管理する。

4. 解析方法

- レーダ装置または解析ソフトによるパソコン上で鉄筋位置を読みとり、図2のようにシート上に鉄筋位置を書き込む。
- 鉄筋から離れている測定ラインを選定し、かぶりを求める。図2の場合、ライン④、⑤、⑥を選定する。

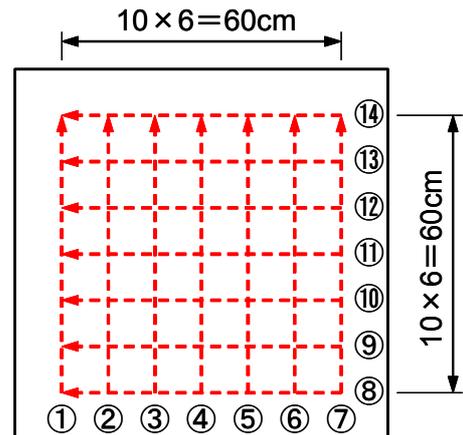


図1 測定用シートの例
（測定ラインと番号）

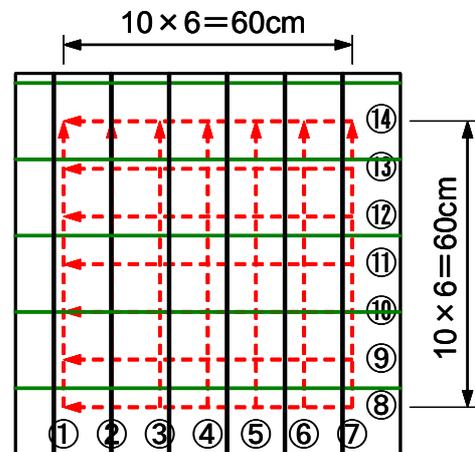


図2 シート上に鉄筋の書き込み